

# A Case Study of Vietnamese Care Worker Students' Use of Sino-Vietnamese Words in the Reading Process of National Examination Questions for Care Workers

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 良造, 比留間, 洋一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00028598">https://doi.org/10.14945/00028598</a>

# ベトナム人介護留学生による介護福祉士国家試験問題の 読解過程における漢越音利用のケーススタディ

佐々木良造／比留間洋一

## 【要 旨】

本研究は、ベトナム語を母語とし、日本国内の介護福祉施設で介護福祉士として就労するために介護福祉士養成機関で学ぶ留学生を対象とした介護福祉士国家試験の読解過程のケーススタディである。介護福祉士養成施設の卒業者は、2027年度以降、介護福祉士の国家資格取得が求められ、介護留学生にとって介護福祉士国家試験対策が喫緊の課題となっている。そこで本研究では、ベトナム人介護留学生1名を対象に介護福祉士国家試験の読解過程の調査と、そのフォローアップインタビューを行った。読解過程調査の結果、日本語の漢字語彙をベトナム語の漢越音に置き換え、意味を類推していることがわかった。インタビュー調査の結果からも漢越音から意味を推測していることが裏付けられた。また、調査協力者は漢越語の利用に最も効果があるのは読解であると述べる一方で、漢字学習における漢越語の利用については、導入時期や個人の学習スタイルの違いによるため、一概に推奨できないとも述べていることがわかった。

【キーワード】ベトナム人介護留学生、介護福祉士国家試験、読解過程、漢越音、意味の類推

## 1. 問題の所在

介護福祉士という国家資格は1987年に、介護福祉士国家試験は1989年に始まった。一方、国外から日本への介護人材の受入れは2008年に経済連携協定（EPA）のもと始まった。2017年9月に介護福祉士の国家資格を取得した留学生の在留資格「介護」が創設、同年11月に技能実習制度に介護職種が追加、2019年には在留資格「特定技能」が創出された。このうち、制度趣旨として介護福祉士国家試験の受験が求められるのはEPA介護福祉士候補者と外国人介護留学生（以下、介護留学生）である。

EPA介護福祉士候補者の国家試験合格率の比較では、インドネシア人の第1陣（2008年度入国）から第10陣（2017年度入国）までの平均累積合格率<sup>(1)</sup>は59.5%、フィリピン人の第1陣（2009年度入国）から第9陣（2017年度入国）までの平均累積合格率は53.0%であるのに対し、ベトナム人の第1陣（2014年度入国）から第4陣（2017年度入国）までの平均累積合格率は95.3%である。この結果の違いは主に、先行したインドネシア（2008年）、フィリピン（2009年）の看護師の国家試験合格率が低いことを踏まえて、ベトナム（2014年）の受入れスキームが構築されたことに起因すると考えられる<sup>(2)</sup>。

一方、介護留学生の国家試験合格率に関する国籍別のデータはない。しかし次のように、ベトナム人介護留学生の合格率は、良く見積もったとしても、上述したEPAフィリピン人、インドネシア人の合格率程度であると考えられる。即ち、2017年度の外国人<sup>(3)</sup>（養成施設

の卒業見込者であり、既卒者は含まない。以下同様)の国家試験合格率は41.4% (152人受験)、2018年度は27.4% (394人受験)<sup>(3)</sup>、2019年度は39.2%<sup>(4)</sup>であり、介護留学生の国籍別人数は2015年度以降ベトナム人が最多で40%以上を占めているからである<sup>(5)</sup>。

また、日本介護福祉養成施設協会(以下、介養協)の調査結果から、ベトナム人介護留学生の中には、EPA介護福祉士候補者と同じ、ベトナムの看護大学(4年制)・短大(3年制)の既卒者も少なくないことがうかがえる<sup>(6)</sup>。つまり、EPAと留学という制度の違いが、合格率の結果の違いを生んでいると考えられる。ここから、EPA介護福祉士の合格率の促進要因<sup>(7)</sup>とともに、介護留学生の国家試験合格の阻害要因を解明する必要のあることが示唆される。

介護福祉士養成施設卒業生に対する国家試験の義務付けについては、当初2022年度以降に義務化する予定であった。しかし、先述の通り2018年度の介護留学生の合格率は27.4%と低かった一方で、留学生は全国の養成校の入学者全体の約3割を占めるに至った。それを受け、義務化は5年間の先送りとなった。つまり現在は、国家試験に合格しなくても、養成校卒業生は介護福祉士資格が得られる状態にある。

では、介護留学生にとってキャリア形成における国家試験合格の重要性とは何であろうか。先例としてのEPAの場合、第二筆者(比留間)の聞き取りでは、EPA介護福祉士の中には職場において課長や主任など、より上位の資格や職務に就く人が現れている。また、元EPA介護福祉士の帰国者の中には、日本への介護人材送り出し機関において日本語や介護を教えている者が多く、そのうち国家資格がある者はよりよい待遇が得られる例がある<sup>(8)</sup>。同様のことは、国家試験に合格した元介護留学生についても当てはまると考えられる。つまり、国家試験合格者は、将来のキャリア形成がより有利になる可能性が高いと考えられる。

また予定通り介護福祉士養成施設卒業生に対する国家試験の義務化が行われれば、2027年度以降に養成校を卒業する者から国家試験に合格しなければ介護福祉士になることはできなくなる。そのため、介護留学生の国家試験合格の必要性は、関係者の間ではすでに喫緊課題となっているといえる<sup>(9)</sup>。

その証左の1つに、2020年度、厚生労働省からの委託を受けた介養協が、介護留学生にとっての介護福祉士国家試験の困難点について、初の大規模調査を実施したことがある<sup>(10)</sup>。その成果物である『ガイドライン』(日本介護福祉士養成施設協会2021b)によれば<sup>(11)</sup>、非日本語母語話者にとっての介護福祉士国家試験の困難点として、以下等が指摘されている<sup>(12)</sup>。

- ・使われている介護専門の漢字語彙が難しい(同p.39)
- ・使用されている語彙数が多い。「7年分の国家試験から漢字語彙を抜き出してみたところ、約22000語」「その中で使用頻度15回以上の漢字語彙はそれに比べてずっと少なく、約300語彙くらい」(同p.40)
- ・使用されている語彙の分野が多岐に渡っている。「国家試験の科目は12科目あり」「法律、制度から家事、人体、病気など、それぞれに使われる語彙の種類が違います」(同p.40)
- ・法律、制度、病気の言葉には長い漢字の言葉が多い(同p.45)

また、介護福祉士国家試験に必要な日本語力としては、特に「類推力のために必要とな

る「漢字」、「漢字語彙」、「読解力」が挙げられている（同p.41）。

この介養協による調査研究は本研究にとって重要な先行研究である。特にガイドラインの次の2つは、本研究との関係性が深い。

- ① 「Ⅲ. 国家試験で使用される日本語を理解する」（同pp.39～46）には、EPA介護福祉士候補者に対する長年の指導経験を基にした知見が盛り込まれている。
- ② 「巻末参照編. 令和元年度国家試験 誤回答の分析」は「全国にある養成校53校から2年次の留学生約410名の協力を得て」「試行試験（内容は第32回介護福祉士国家試験）を実施」。「試行試験実施ののち、採点結果の振り返り時間を設けてもらい、各教員による留学生への聞き取り調査を行う」（下線部は第二筆者）たもので、「留学生はどのようなポイントで問題を間違えやすいのか」その傾向を理解していただくために、本資料を活用頂き、指導の一助にさせていただくことをねらいとしている。

これらは貴重な成果であるが、一定の限界もある。とくに上掲（下線部）の「各教員による留学生への聞き取り調査」は、日本語で実施されたと考えられる。しかし、たとえば日本人学生が英語の問題を解き、それを間違えた理由について自分で分析し、かつ英語で説明することはかなり難しいのではなかろうか。そこで、筆者らは、次に述べる方法で、ベトナム人介護留学生にベトナム語で聞き取り調査を行い、読解過程を記録したデータを作成、分析することにした。

## 2. 研究の枠組み

読解過程の研究手法として、野田編（2020）の「学習者に日本語の読み物を読んでもらいながら、理解した内容を自分の母語で語ってもらう」方法を採用した（同p.8）。

野田（2020）によると、読解過程の研究課題として、「日本語学習の読解困難点」、「日本語学習者の動的な読解過程」、「日本語学習者の読解過程の諸相」、「日本語学習者の多様な読解活動」の4つの研究課題が設定できるという。本研究は、読解過程で起きる意味の類推であることから、上述の4つの研究課題のうち、「日本語学習者の動的な読解過程」を明らかにしようとする試みであると位置づけることができる。

なお、本研究では「できるだけ実際の読解活動を再現するため」（同p.9）、介護福祉士国家試験の問題を読む素材として準備し、読むときに辞書の使用、インターネットの利用を禁じた。この2点が野田（2020）の提唱する読解過程の研究手法と異なる。

調査1では、まず、ベトナム人介護留学生に介護福祉士国家試験問題に読解・解答してもらう。その後、その読解・解答過程をベトナム語で話してもらい、記録、分析する。この手続きによって得られたデータのうち、本稿では日本語の漢字語彙の意味の類推に着目する。

現在、ベトナム語は書字として漢字を使用しないものの、ベトナム語の語彙には漢語からの借用語、つまり漢越語が多く存在し、ベトナム語の語彙の約7割が漢越語である（富田2001）。また、旧日本語能力試験の出題語彙全体の25%が漢越音（漢越語のベトナム語読み）から意味の類推が可能である（松田2008）。

これらのことから、ベトナム人介護留学生にとって、漢越音を利用した日本語の漢字語彙の意味の類推ができるかどうかは、語彙知識の下支えとなるだけでなく、介護福祉士国

家試験問題の読解にも有効に働くと考えられる。つまり、本研究の「読解過程における漢越音利用」とは、漢越音と日本語の漢字の音読みの音韻的類似性から日本語の漢字語彙の意味を推測する過程の解明を試みるものである。

### 3. 調査協力者について

調査協力者は、日本にある介護福祉士養成校（2年制の短期大学）に所属（調査1の時点）する2年生のベトナム語母語話者1名である。調査協力者の日本語能力は、日本語能力試験N2レベルである。調査協力者は、ベトナムでは私立大学で4年間日本語を専攻した。在学中には同時に、ドンズー日本語学校<sup>(13)</sup>で2年間日本語を学んだ。来日後は日本語学校で2年間日本語を学び、日本語学校2年次に介護施設を見学するバスツアーに参加したことをきっかけに、介護福祉士養成校への進学を決めた。介護福祉士養成校の2年次に令和3年実施の第33回介護福祉士国家試験を受験し、合格した<sup>(14)</sup>。調査1の実施は国家試験から1か月ほど経っていた。

## 4. 調査の手続きと結果

### 4.1 調査1：読解・解答過程調査

調査協力者が読む素材は、令和2年実施の第32回介護福祉士国家試験問題である<sup>(15)</sup>。3名の調査者（佐々木、比留間、天野）間で話し合い、12科目125問の中から、できるだけ各科目から、留学生の正答率が低いと考えられる問題13問を選び出した<sup>(16)</sup>。実施時間は、読解過程の聞き取り（理解した内容をベトナム語で話してもらおう）が1時間、解答過程の聞き取り（なぜそのように解答したかベトナム語と日本語で話してもらおう）が1時間、計2時間であった。

ベトナム語での調査および録音データの文字化は主に第二筆者が行なった。文字化したスクリプトの解釈は主に第一筆者（佐々木）と、漢越音と漢越語の専門家である共同研究者（ファン）が行なった。また介護福祉学を専門とする共同研究者（天野）は主に研究デザイン、解答過程の聞き取りを行なった。スクリプトの解釈を含む本原稿の内容は合意に達するまで第一筆者と第二筆者で行なった<sup>(17)</sup>。

#### 4.1.1 日本語の漢字語彙の漢越音置き換えによる意味の類推

「学習者に日本語の読み物を読んでもらいながら、理解した内容を自分の母語で語ってもらう」方法（野田2020）で調査協力者の発話内容を分析したところ、以下のように、日本語の漢字語彙を漢越音に置き換えて説明する発話が見られた。ベトナム語の発話中、考察の対象となる語を太字で示し、日本語訳ではゴシック体で示した。

例1：地震対策に関する助言として適切なものを選ぶ問題35の選択肢1「家具にはキャスターをつける」のベトナム語訳にあらわれた“*gia cụ*”（家具）

*Cái này là ở hãy gắn bánh xe vào những cái dụng cụ và vào những cái gọi là **gia cụ gia cụ** là đồ dùng trong gia đình là hãy gắn bánh xe vào những đồ dùng trong gia đình*

(日本語訳) これは、キャスターを道具につける、つまり家具、家具とは家の中の道具で、家の中の道具にキャスターをつけなさい、ということ。

「家具」に相当する発話は“*gia cụ*”である。“*gia*”は日本語で言うところの「家」の音読み「か」に相当し、“*cụ*”は「具」の音読み「ぐ」に相当する。しかし、ベトナム語で“*gia cụ*”という言い方はしない。つまり、調査協力者は「家」の漢越音は“*gia*”で、「具」の漢越音は“*cụ*”という対応を知識として持っており、日本語の漢字語彙「家具」を“*gia cụ*”と漢越音に置き換えて文意を理解しようとしたと考えられる。

例2：施設における安眠を促す環境として適切なものを選ぶ問題57の選択肢1「湿度は20%以下に設定する」のベトナム語訳にあらわれた“*thiết định*”（設定）

*câu số một là sẽ thiết định cái đồ ẩm dưới 20 % là nó là chính cho độ ẩm nó dưới hai mươi phần trăm*

(日本語訳) 1番目の文は、湿度を20%以下に設定する、それは湿度を20%以下に整えること。

「家具」を“*gia cụ*”という漢越音に置き換えたのと同様に「設定」を“*thiết định*”という漢越音に置き換えている。“*thiết định*”という言い方はベトナム語では一般的ではない。

例3：問題81の指示文「認知症（dementia）の発症リスクを低減させる行動に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい」のベトナム語訳にあらわれた“*phát chứng*”（発症）

*Tám mươi một những câu nào dưới đây những câu ở dưới đây liên quan đến hành động và giảm thiểu cái nguy cơ phát chứng 認知症 ở đây là những tin liên quan đến giảm thiểu cái nguy cơ mà bị giảm thiểu trí nhớ ở người già*

(日本語訳) 81、以下の文、認知症の発症の危険の減少と行動に関連する以下の文、ああ、これは老人の記憶の減退の危険の減少に関連する情報のこと

例1、例2と同様に「発症」を“*phát chứng*”と漢越語に置き換えている。例2の“*thiết định*”（設定）と同じく、“*phát chứng*”というベトナム語はない。なお、例3のベトナム語訳の斜字体の部分は、その部分だけ日本語で発話したため、漢字で表し、日本語訳は斜字体で表した（以下、同様）。

例4：「障害者差別解消法」に関する記述のうち、適切なものを1つ選ぶ問題88の選択肢3「共生社会の実現を目指している」のベトナム語訳に見られた“*cộng sinh*”（共生）

*cái luật này có mục đích là thực hiện thực hiện được sẽ thực hiện được gọi là thực hiện hóa cái*

*một cái xã hội có thể cùng sinh sống với nhau kiểu như là cộng sinh xã hội cộng sinh là người khuyết tật và người khỏe mạnh có thể cùng chung sống với nhau*

(日本語訳) この法律の目的は、実現、実現する、つまり共に生きる社会を実現化すること、共生社会、共生とは障害者と健康な人が共に暮らすこと。

「共生」を“*cộng sinh*”という漢越音に置き換えている。上述の例と同様、“*cộng sinh*”というベトナム語はない。

例5：例4と同じ問題88の選択肢5「障害者差別解消支援地域協議会は、民間事業者で組織される」のベトナム語訳に見られた“*hiệp nghị hội*”（協議会）

*Trời ơi cái này là cái hội nghị gì đó, giờ phải bắt dịch cái này nữa, Tổ chức, cái hội nghị hiệp nghị hội nghị hội 支援地域 có nghĩa là cái này sẽ là một cái ơ hội hiệp nghị hội hiệp nghị hội 地域 là địa phương 支援 là hỗ trợ địa phương là có nghĩa là cái một cái hội của địa phương mà để hỗ trợ giải trừ được nạn phân biệt đối với lại người tàn tật thì được tổ chức bởi những cái doanh nghiệp tư nhân, 民間 đúng rồi doanh nghiệp tư nhân*

(日本語訳) わあー、これは何かの会議です、今これも訳さないといけない、組織される、会議、協議会、議会、支援地域の意味はこれは、会、協議会、協議会、地域は地方、支援は支援、意味は地域の1つの会議で、障害者に対する差別を解除するためのもので、民間企業、民間 そうそう民間企業によって組織される

「協議会」を“*hiệp nghị hội*”という漢越音に置き換えている。“*hiệp nghị*”は「協議」にあたり、“*hội*”は「会」にあたる。上述の例と同様、“*hiệp nghị hội*”もベトナム語にない。

例6：問題107の指示文「終末期に自分が望むケアをあらかじめ書面に示しておくことを表す用語として、正しいものを1つ選びなさい」に現れた漢字語彙「書面」の推測過程

*Syo là là là là là, à 示し là chỉ 書面 là, gọi là 書面 là, cái này hán tự là phương diện, ê ê thư điện, là về mặt giấy tờ điện là sẽ là về mặt gì đó 書 này là chữ thư là chữ giấy rồi thì về mặt giấy tờ gì đó rồi, thôi cái này nó là Tóm lại nó là như vậy đó, dịch sang tiếng việt em cũng không hiểu*

(日本語訳) 書は一、あー 示しは示す、つまり書面は、書面は、これは漢字は方面、ええっと書面は、紙の面、面は何かの面、この書は字、書は字、紙なので、何かの紙面ですね、これは要するにそういうことで、ベトナム語訳は私もわかりません。

例6は「書面」を“*thư điện*”という漢越音に置き換えており、“*thư điện*”もベトナム語にない。「書面」の意味の推測は「面」(漢越音は“*diện*”)。「書は字」と推測し「何かの紙面ですね」と推測している。最終的には「これは要するにそういうことで、ベトナム語訳は私もわかりません」と述べており、理解を保留している。

## 4.2 調査2：日本語の漢字学習における漢越語の利用に関するインタビュー調査

調査2の目的は、調査1の結果の背景分析として、調査協力者の漢字学習における漢越語の利用に関するインタビュー・データを記述、分析することである<sup>(18)</sup>。

2021年9月に、オンラインによる半構造化インタビューを行った<sup>(19)</sup>。インタビュー時、調査協力者は2021年3月に養成校を卒業し、4月から介護福祉士として日本で働いていた。インタビューの大半は共同研究者（ファン）がベトナム語で行い、一部は第二筆者と共同研究者（道上）が日本語で行った<sup>(20)</sup>。実施時間は約1時間であった。インタビュー内容は調査協力者の許可を得て録画し、その録画データを基にスクリプト（ベトナム語）を作成した。

### 4.2.1 調査2の結果

インタビューから得られた内容を、以下3つの項目の下、第二筆者が再構成した。スクリプト（ベトナム語）から日本語への訳出は第二筆者が行った。

#### 4.2.1.1 漢字学習における漢越語利用について

##### ①漢字の学習歴と学習方法<sup>(21)</sup>

調査協力者は、「ベトナムのドンズー日本語学校（以下、ドンズー）で漢字の基本を学んだため、漢字はとても面白いと思っている」という。調査協力者によれば、ドンズーは学校独自の教材を使用している。初期に使用する基礎の漢字教材（単漢字500字）の場合、見開き右ページに単漢字が部首ごとに並んでいる。見開き左ページにそれぞれの単漢字の漢越音、その下にその意味が書いてある。最初に、漢字の学習方法について、巻末にある部首一覧表とともに、部首に分けると覚えやすいと教えられる。その上で毎日、漢字を漢越音で読ませる。つぎに教師（ベトナム人）が意味について説明する。その後、教師が漢字の音読みと訓読みを説明する。音読みと訓読みは学習者が自分でメモを取る。例えば、「水」という漢字の場合、まず「thủy」という漢越音を繰り返し音読することで暗記する。つぎにそれが「nước」という意味である説明を受け、その後、「すい」という日本語の音読みと「みず」という日本語の訓読みについて説明を受けた。500字の基礎テキストが終わったら、『常用漢字表』（2136字）のテキストを学んだという。

漢字の書き方については、教師が部首に分けて説明するという。例えば、「教」の場合、「老」の「匕」を除いた部分と「子」、それに「攴」というように分けてから、その順序で書くように習う。つまり漢字の部品を組み合わせていく。

新出漢字を調べる時には、ベトナムにいる頃はドンズーから貰った本と、辞書アプリ「mazii」を使っていたという<sup>(22)</sup>。今（インタビュー時）は「mazii」だけを使っている。ある漢字語彙（例として「擁護」）を「mazii」で調べた時、調査協力者は、まずは日本語の読み方（「ようご」）を覚え、次に漢越音（ỦNG HỘ）を覚え、それからその漢字の日本語での意味（Bảo vệ）を覚える。そのようにしてその語彙を覚えてから、ようやくその漢越語（ỦNG HỘ）の意味が何かを理解しようとするという。この場合「ỦNG HỘ」のベトナム語での意味は日本語の「応援する」に近く、「擁護する」という意味とは異なるが、調査協力者はその意味の違いについて注意するようにしているという。



来日後、日本の日本語学校では、2週間に1回、「漢字検定」があった。毎回100文字が出題され80点で次のテストにレベルアップしていく。インドネシア人やミャンマー人よりもベトナム人の上達が早かった。その理由について調査協力者は、ベトナム人には漢越語があるから有利なのだろうと述べた。

#### ②漢越語知識の利用方法

二字漢字語彙の時は、漢越音を使ってその読み方を推測する。またその意味も漢越語知識から推測する。ただし意味は文脈に応じて推測する必要もあるという。さらに、新出漢字の記憶にも漢越語知識は役に立っているという。

#### ③漢字学習で難しいと感じること

漢字の読みについては、1つは、漢越音を知っていても日本語の音読みがうまく推測できない時がある。例えば「生」という字の音読みは基本的に「せい」だが、「一生」の時は「しょう」、「芝生」の時は「ふ」と読む。このような場合、「しょう」や「ふ」といった「特別な」（調査協力者の表現）場合について暗記するようにしているという。もう1つは、訓読みが少し難しいという。例えば「結」の音読み「けつ」は漢越音“két”と似ているから易しいが、訓読みの「むすぶ」は読み方が分からないことがあり、苦手だという。

書くことについては、例えば「池」と「地」の場合など、漢字の部品が同じだと間違えて書いてしまうことがあるという。

### 4.2.1.2 読解過程における漢越語利用について

#### ①最も効果があるのは読解

調査協力者は、漢越語知識が最も有効なのは、日本語の読解をするときだという。ほとんどの文章を読解することができ、読解には自信があり、読解を得意としているという。日本語を勉強している頃、読解の点数は文法よりも高い点であったという。

ただし、漢字の意味推測は間違えることもあるという。読解時は、その漢字の意味だけでなく、文法も関係するが、文法は苦手なので間違えることもあるという。

#### ②読解時は理解が難しい漢字語彙だけ漢越音に置き換えて意味を推測する

調査協力者は、大体の漢字については見れば意味が分かるという。また、特に読解時は一つ一つの漢字を漢越音に置き換えている時間はなく、普通はどんどん読んでいく。理解が難しいと感じた漢字語彙があった時だけ、それを漢越音に置き換えて、その意味を推測しようとするのだという。

### 4.2.1.3 漢越語知識を利用した介護福祉士国家試験対策についての意見

#### ①私には合っている

調査協力者は、初級の時から中級以上になってからも、ずっと漢越語知識を利用しているという。その理由について、調査協力者にとっては面白く、有益だと感じられるからだという。ただし、漢越語知識を利用せずに日本語能力検定N1に合格した友人もいるため、漢越語知識を利用することが日本語学習の必須の方法だとは思わないともいう。

#### ②これまで漢越語を学んでこなかった介護留学生には勧めない

「介護留学生もできるだけ養成校入学後に漢越語を集中的に学んだほうがいいのではない

か」という質問に対して、協力者の意見は否定的であった。調査協力者によれば、養成校入学後は介護の専門用語を沢山覚える必要があり、また日本語学習量も増える。それに加えて漢越語を一から学ぶのは負担がかかりすぎる、調査協力者自身、国家試験のための勉強だけで目一杯だったという。そのため、漢越語を学ぶなら、養成校入学より前に、最初に日本語を勉強し始めたときから勉強したほうがよいという。そして、渡日後に介護の勉強をすることが決まっている場合は、渡日前のベトナムの日本語学校は、会話重視よりも漢字重視の学校のほうがよいと思うが、それもあくまで私（調査協力者）は1人の事例に過ぎないので他の人にも当てはまるかどうかはわからない、と述べた。

### 4.3 考察

調査1のデータから、日本語の漢字語彙をベトナム語の漢越音に置き換え、意味を類推していることがわかった。上記の6例に共通する特徴として、漢越音に置き換えた言葉をパラフレーズして説明している点があげられる。

漢越音に置き換えた日本語の漢字語彙が、ベトナム語として一般的に使われる語彙だとしたら、つまり無標だとしたらその言葉の説明は必要ない。ベトナム語にはない言葉、つまり有標であるためパラフレーズが必要となる。

無標の例をあげる。

例7：口臭に関する記述として適切なもの選ぶ問題100の選択肢5「他者との交流を避ける原因となることがある」のベトナム語訳に現れた“*nguyên nhân*”（原因）と“*giao lưu*”（交流）。

*câu thứ năm là sẽ trở thành nguyên nhân à, sẽ trở thành nguyên nhân mà làm cho mình không có giao lưu với người khác, tránh giao lưu với người khác*

（日本語訳）5番目の文は原因になる、ああ、他人と交流しない、他の人との交流を避ける原因となります。

「原因」を漢越音に置き換えると“*nguyên nhân*”となり、「交流」を漢越音に置き換えると“*giao lưu*”となる。例7の「原因」と「交流」は、漢越音に置き換えることが即ちベトナム語に翻訳していることとなる。従って、“*nguyên nhân*”も“*giao lưu*”も説明する必要はない。

ベトナム語の約7割が漢越語である（富田2001）こと、旧日本語能力試験の出題語彙全体の25%が漢越音から意味の類推が可能である（松田2008）ことから、調査1での読解過程調査でも例7と同様の例は枚挙に暇がない。

つまり、パラフレーズされているということはベトナム語にはない言葉であることの証左の1つと考えられる。以下、漢越音に置き換えた言葉をパラフレーズしている部分の日本語訳のみ再掲する（下線は第一筆者）。

例1：「家具とは家の中の道具で、」

例2：「設定する、それは湿度を20%以下に整えること」

例3：「認知症の発症の危険の減少と(中略) ああ、これは老人の記憶の減退の危険の減少」

例4：「共生社会、共生とは障害者と健康な人が共に暮らすこと」

例5：「協議会、地域は地方、支援は支援、意味は地域の1つの会議で、」

例6：「書面は、紙の面、面は何かの面、この書は字、書は字、紙なので、何かの紙面です  
ね」

調査1の結果は、介護福祉士国家試験問題の読解過程で、日本語の漢字語彙を類推するとき、漢越音に置き換えるという読解ストラテジーが有効であることを示唆している。

調査2から、調査協力者は、介護養成校入学前に少なくとも4年間(ベトナムでの漢越語利用を2年間と見積もった場合)、漢字学習の過程で自動化された漢越語知識の利用とそれによって獲得された漢字・漢字語彙の知識を有していた。調査協力者はこのような自身の経験に基づき、養成校入学後に初めて漢越語を学習することに対しては否定的であったと考えられる。

また、日本語の漢字学習と平行して漢越語を学ぶことについては、調査協力者の言う通り、それに合う人と合わない人、それを面白いと思うか思わないか、という学習者の姿勢も重要であることに留意する必要がある。

そして、調査1の意味の類推過程、調査2のインタビューにより明らかになった日本語学習の履歴から、意味の類推の過程で日本語の漢字語彙を漢越音に置き換えることができたと考えられる。たいていの場合、日本語学習における漢字教育は、字形が単純なものから複雑なものへと配置され、形、音(音読み・訓読み)、義(意味)を同時に学習していく。しかし、調査2の結果から、調査協力者は日本語学習の初期に単漢字とその漢越音の対応を『常用漢字表』(2136字)まで学習していたことがわかった。ドンゾーにおける形・音・義に加え、単漢字とその漢越音を併せた漢字学習から、「共生」や「書面」のように、日本語の漢字語彙を漢越音に置き換えることが可能となり、意味の類推ができたと考えられる。

#### 4.4 調査のまとめ

調査1の結果は、漢越語を利用した漢字学習方法を行ってきた学習者は、読解において有利な能力を有していることを示している。

調査2の結果は、調査1の結果の背景に、協力者が6年間以上(ベトナムで2年、日本の日本語学校で2年、養成校で2年)継続して、漢越語を利用した漢字学習方法と読解方法をおこなってきたことがあることを明らかにしている。

#### 5. 本研究の問題点と今後の課題

本研究の問題点として、今回得られた知見は、調査協力者が述べた通り「1人の事例に過ぎないので他の人にも当てはまるかどうかはわからない」。また、3.1の読解過程調査において「できるだけ実際の読解活動を再現するため」(野田2020)、介護福祉士国家試験の問題を読む素材として準備し、読むときに辞書の使用、インターネットの利用を禁じたが、

介護福祉士国家試験の問題を解く時間は制限しなかった。実際の介護福祉士国家試験の試験時間は、外国の国籍の場合（申込時の申請により通常の1.5倍延長される）、計330分（5時間30分）の間に125問の問題を解かなければならない。単純計算で1問を解くのに使える時間は2分38秒程度である。3.1の調査のフォローアップインタビューでも、この選択肢が正解だと思ったらそれ以降は読まない、質問文を読んでから問題文を読む、とコメントしていた。こうしたことから、今回の読解過程調査では、「できるだけ実際の読解活動」、すなわち介護福祉士国家試験の試験本番の読解活動を再現しているわけではなかった。

しかし、3.1の結果からも「学習者に日本語の読み物を読んでもらいながら、理解した内容を自分の母語で語ってもらう」方法は、学習者の読解過程の解明に適した方法であると言えよう。本研究の対象者が介護留学生であること、その目標の1つが介護福祉士国家試験合格であることから、読解の対象を介護福祉士国家試験問題から別のテキストに変えることは研究の趣旨にそぐわないため変更できないものの、読解過程の解明のため、特に漢越音の知識と辞書利用に関する過程を明らかにするためには、読解時の辞書を認めるほうが有効なデータが得られるだろう。

さらに本稿を踏まえた今後の研究課題として、少なくとも以下5つが挙げられる。

- (1) 養成校入学以前に、漢越語の利用を教わる機会がなかった国家試験合格者を対象とした読解過程調査を実施することにより、①漢越語利用者と比べ、その読解力にはどのような特徴（例えば、読解の速さ、漢字語彙の意味理解の正確さ）が見られるか、及び、②合格の背景分析としてどのような解答ストラテジー（介護の専門知識によるトップダウン処理等<sup>(23)</sup>）を有しているか。
- (2) 養成校入学以前に、漢越語の利用を教わる機会の無かった介護留学生のうち、どのくらいの学習者が、日本語の漢字と漢越語との対応関係について、辞書アプリ等を通して自分で気が付き、習慣化しているか。
- (3) 上述の(2)の学習者（自ら気が付いて漢越語利用を積極的に行っている学習者）は、漢越語利用を積極的に行っていない学習者と比べ、介護の専門用語（漢字語彙）の習得、国家試験の読解においてどの程度、優越しているか。
- (4) 漢字学習における漢越語利用を面白いと感じる人、自分に合うと感じる人と、そうではない人との違いの背景には何があるか。
- (5) 養成校入学以前に漢越語の利用を教わる機会の無かった学習者のうち、もし養成校入学後に漢越語の利用について教わる機会があった場合、それを面白い、自分に合うと感じる人はどのくらいいるか。また、面白い、自分に合うと感じる介護留学生がそれ以降、漢越語利用を習慣化した場合、それ以降の介護の専門用語（漢字語彙）の習得、国家試験の読解において、どのような変化（効果）が見られるか。

## 謝辞

本研究は、科学研究費補助金・基盤研究（C）「日本におけるベトナム人介護留学生急増の背景と受入の持続可能性に関する人類学的研究」（研究代表者：比留間洋一）の助成を受けたものである。ファンティミーロアン氏、天野ゆかり氏、道上史絵氏から貴重なご意見を頂いた。記して感謝申し上げます。

## 注

- (1) 累積合格率は、再受験の者を含めた合格率のこと。
- (2) インドネシア、フィリピンとベトナムの受入れスキームの異同、及び、看護師と介護福祉士の受入れスキームの異同などの詳細は、比留間（2021：43-51）
- (3) 外国人の人数は、受験申込書に外国の国籍を記入した者の人数（厚生労働省「介護福祉士養成施設卒業生に対する国家試験の義務付けについて」  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000571171.pdf>（2021年6月1日閲覧）
- (4) 日本人の場合、それぞれ89.1%、90.9%、である。（注3と同じ資料より）
- (5) 日本介護福祉士養成施設協会（2021）『外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書』
- (6) 2015年度入学者ベトナム39人（全体に占める割合は41.4%）、以下同様に、2016年度114人（44.3%）、2017年度364人（61.5%）、2018年度542人（47.4%）、2019年度1,047人（51.3%）、2020年度1,015人（41.9%）となっている。
- (7) 日本介護福祉士養成施設協会（2018）。左記報告書より、ベトナム人は全体（N=416）の44.7%（同p.59）。ベトナム人に限らないが、看護学校卒者（N=153）の通っていた看護学校は4年制が22.2%、3年制が36.6%（同p.62）である。
- (8) 天野ゆかり（発表者）・比留間洋一（共同研究者）「EPA介護福祉士の国家試験合格率に関する分析—ベトナム人合格者の語りから」（日本介護福祉教育学会での口頭発表、於桃山学院大学、2019年8月23日）、及び、比留間・天野（2020）はこの問題（ベトナム人EPA介護福祉士の合格率の促進要因）に関する研究成果である。
- (9) 厚労省は「この間に、養成施設の教育の質を上げ、国家試験合格率を高めていくことが必要」としている（厚生労働省「介護福祉士養成施設卒業生に対する国家試験の義務付けの経過措置の延長」  
<https://www.mhlw.go.jp/content/12201000/000648682.pdf>（2021年6月1日閲覧）
- (10) 注5と同じ事業報告書および『介護福祉士国家資格取得に向けた留学生指導についてのガイドライン』
- (11) 本事業の実施内容は次の7点である。（1）国家試験結果の分析、（2）先行研究・調査の分析、（3）養成校・留学生へのアンケート調査の実施・分析、（4）試行試験・模擬試験の実施・分析、（5）養成校・留学生へのヒアリングの実施、（6）ガイドラインの作成。例えば、（3）留学生調査の有効回答数は1,011名（50%）、養成校調査の有効回答数は120校（73.6%）。（4）試行試験の有効回答数は53校（回収率74.6%）。模擬試験の有効回答数は67校（回収率43.7%）、留学生631名などとなっている。
- (12) 10年以上、EPA介護福祉士候補者に対して国家試験対策指導を実施してきた、橋本由紀江氏（一般社団法人 国際交流&日本語支援Y）が執筆を担当した部分。
- (13) ベトナム、ホーチミン市に所在。漢字教育を集中的に行うことで有名。ドンズー日本語学校の詳細は山本（2017:35）を参照。同論文には、ドンズーの漢字教育方法についても説明がある。が、その説明は本稿の説明ほど詳しいものではない。
- (14) 調査実施時、合格発表はまだ行われていなかったが、自己採点結果は合格であった。
- (15) 実施前に、調査協力者に第32回試験問題を少し見てもらったところ、以前解答した

- 可能性はあるが、殆ど全く覚えていないと話した。
- (16) 日本介護福祉士養成施設協会 (2021b)『ガイドライン』から、調査で使用した13問は、留学生の正答率が低い問題であったことが確認できる。
- (17) この調査結果のうち、「データから得られた困難点」については比留間・佐々木・ファン・天野 (2021) において論じた。これに対し、本稿は漢越語利用に焦点化したものと位置づけられる。
- (18) 本稿の協力者へのインタビューは、上述の目的のために実施した11名を対象としたインタビューの一環として行われた。まず日本の大学と大学院で日本語・言語学・法学を学ぶベトナム人留学生7名を対象としたインタビュー調査を実施。その調査結果は、ファン・道上・比留間 (2021) として公にした。つぎに日本の介護福祉士及び看護師国家試験に合格した介護看護卒者4名を対象としたインタビューを実施した。これについてはPhan・道上・比留間 (2022) として発表する (2022年3月刊行予定)。
- (19) インタビューの質問項目を詳細についてはファン・道上・比留間 (2021) に譲り、本稿では紙幅の関係上、割愛する。
- (20) ただし、比留間と道上もベトナム語ができるため、インタビュー内容の理解、スクリプト (ベトナム語) の分析を行うことができる。
- (21) 漢字学習以外の教科書は、ベトナムの大学 (日本語専攻) では『日本語総まとめ』 (アスク出版)。日本の日本語学校ではN2とN1レベルの『新完全マスター』 (スリーエーネットワーク)。他に『耳から覚える日本語能力試験』 (アルク) は自習用に使用した、という。
- (22) <https://mazii.net/search?hl=vi-VN> (2021年6月1日閲覧)
- (23) 本稿の調査協力者の読解過程調査で観察された介護の専門知識によるトップダウン処理については、比留間・佐々木・ファン・天野 (2021) を参照。

## 【参考文献】

- 日本介護福祉士養成施設協会 (2018)『介護福祉士を目指す外国人留学生等に対する相談支援等の体制整備事業 アンケート調査 報告書』  
[http://kaiyokyo.net/news/04\\_report\\_01.pdf](http://kaiyokyo.net/news/04_report_01.pdf)
- 日本介護福祉士養成施設協会 (2021a)『外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書』 (令和2年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進事業) [http://kaiyokyo.net/pdf/r2\\_gaikokujin\\_gakushuushien.pdf](http://kaiyokyo.net/pdf/r2_gaikokujin_gakushuushien.pdf)
- 日本介護福祉士養成施設協会 (2021b)『介護福祉士国家試験取得に向けた留学生指導についてのガイドライン』 [http://kaiyokyo.net/pdf/r2\\_ryugakusei\\_guidelines.pdf](http://kaiyokyo.net/pdf/r2_ryugakusei_guidelines.pdf)
- 野田尚史編 (2020)『日本語学習者の読解過程』 ココ出版
- 富田健次 (2001)『ベトナム語 はじめの一步まえ』 DHC
- 比留間洋一・天野ゆかり (2019)「なぜベトナム介護福祉士はEPAを離れたか? : 来日前の背景から」『地域ケアリング』 21(7), 北隆館, 90-96
- 比留間洋一・天野ゆかり (2020)「EPA介護福祉士候補者のモチベーションの変化と国家

- 試験の影響—ベトナム人1期生の事例—『地域ケアリング』22(1), 北隆館, 78-82
- 比留間洋一 (2021)「日本ベトナム経済連携協定」平野裕子・米野みちよ編『外国人看護師：EPAに基づく受入れは何をもたらしたのか』東京大学出版会, 43-51
- 比留間洋一・佐々木良造・ファン ティ ミー ロアン・天野ゆかり (2021)「ベトナム人介護留学生の読解困難点に関するケーススタディー—介護福祉士国家試験問題を対象として—」『日本語教育方法研究会誌』28(1), 62-63
- ファン ティ ミー ロアン・道上史絵・比留間洋一 (2021)「ベトナム人中上級日本語学習者はいかに漢字・漢字語彙を習得したか—漢越語の利用に関する予備的なインタビュー調査より—」『日本語教育方法研究会誌』28(1), 16-17
- 松田真紀子・タン ティ キム テュエン・ゴ ミントウイ・金村久美・中平勝子・三上喜貴 (2008)「ベトナム語母語話者にとって漢越語知識は日本語学習にどの程度有利に働くか—日越漢字語の一致度に基づく分析—」『世界の日本語教育』vol.18, 21-33
- 山本浩平 (2017)「ベトナムにおける日本語学校の経営存続に関する一考察—ドンズー日本語学校を中心に—」『広島経済大学経済研究論集』40(2・3), 29-40
- Phan Thi My Loan(ファン ティ ミー ロアン)・道上史絵・比留間洋一 (2022)「ベトナム人中上級日本語学習者の漢字習得における漢越語利用—介護福祉士国家試験対策の考案に向けた基礎研究—」大阪大学大学院言語文化研究科『外国語教育のフロンティア』(印刷中)

※おもな執筆担当箇所は次のとおりである。

佐々木良造：2, 4.1, 4.3, 5, および全体の総括

比留間洋一：1, 3, 4.2, 4.3, 4.4, 5

## **A Case Study of Vietnamese Care Worker Students' Use of Sino-Vietnamese Words in the Reading Process of National Examination Questions for Care Workers**

SASAKI Ryozo, HIRUMA Yoichi

*Abstract:* This case study investigated the reading comprehension process of the national care worker examination for international student whose native language is Vietnamese and who was enrolled at a care worker training institution, aiming to work at a welfare facility in Japan. Graduates of care worker training institutions will be required to obtain a national care worker license after 2027, and preparation for the national exam has become an urgent issue for the students. The author conducted a survey of the reading comprehension process for the national care worker examination and a follow-up interview with a Vietnamese care worker student. The results of the reading comprehension process survey showed that the Vietnamese student transliterated the Japanese Kanji vocabulary by applying the Sino-Vietnamese phonetic system and inferred the meaning of the words. The results of the interview survey also supported that the participant inferred the meaning from the Sino-Vietnamese sounds. While she stated that the most effective use of Sino-Vietnamese words lies in reading comprehension, she also stated that the use of Sino-Vietnamese in learning Chinese characters under the context of studying Japanese is not generally recommended as it depends on the time of introduction and individual learning styles.